

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

「どうして？」／学校法人長尾学園 長尾幼稚園

子どもたちが大好きな砂遊び。そして次第に、砂団子から泥団子へと夢中になる姿が見られるようになります。

その遊びの過程で、子どもたちは思うようにならないことに困るだけでなく、疑問や不思議さを感じていることが、この事例から伝わってきます。

「どうして？」「なぜだろう？」と、疑問をもち探究心が湧いたり、解決しようと興味や意欲が増したりすることで、繰り返し継続して遊ぶ子どもたちの姿から、「科学する心」が育まれることを読み取ることができます。



● 泥団子／5歳児

✦ 事例1：泥団子を作る途中で壊れるのはどうして？（5月中旬）

戸外遊びで泥団子作りをしているAちゃんが、「あっちにサラサラの白砂がいっぱいあるねんで！」と一緒に遊ぶ友達や保育者を誘い、砂遊びセットが置いてある倉庫の近くに行った。そこには大きい石があまり混ざっていない白砂が沢山あった。Aちゃんは「この白砂はサラサラだから、団子作る時はこの砂かけたらいいねんで！」と言いながら、作っている泥団子に白砂をかけて手で固めていた。保育者も、Aちゃんに言われた通りサラサラの白砂をかけながら一緒に泥団子作りをし、完成した泥団子は袋に入れて口をくくり、保育室に持って行った。

また、Cちゃんも泥団子作りをしていたが、何回作っても途中で割れてしまい上手く泥団子が作れなかった。**なぜ、途中で壊れてしまい上手く作れないのか**と、Cちゃんと一緒に保育者も考えていると、Cちゃんは「あ、もしかして水が少ないのかな？」と、水分が少ないことが原因と気付いた。その後、水を多めに混ぜた泥を使って泥団子を作ると、上手く固めることができた。

援助の工夫

一緒に遊びながら、Cちゃんの思いに寄り添う。疑問や問題を感じ、本児なりに解決するまでの姿を見守り、体験を読み取る。

✦ 事例2：何で白くなっていないのだろうか？（5月下旬）

作った泥団子はビニール袋に入れて口を縛り、ロッカーの上に置いて保管していた。

Aちゃんが「部屋に置いていたお団子、どうなってるかなー？」と言ったので、何人かの子どもと保育者が一緒に見に行く。縛っていた袋の口をほどき、中の泥団子を取り出してみると、泥団子は固くなっていた。

Aちゃん：「あれ？お団子白くなってない！」

Dちゃん：「ほんまや！白くなってない！白砂が足りなかったんちゃう？」

Aちゃん：「でも、白砂いっぱいかけたで?!」

Dちゃん：「じゃあ、**なんで白くなってないんやろうなー?**」

と、話している。

子どもたちは外に置いている泥団子は白くなるが、ビニール袋に入れて保育室に置いている泥団子は白くならないことに疑問を抱いた。



環境の工夫

作った泥団子を大事に置いておけるように子どもたちが使う素材として、ビニール袋が環境にある。

✦ 事例3：泥団子の袋に水が付いている？不思議（5月下旬）

日がよく当たる場所に置いていた泥団子の入ったビニール袋を見て、Dちゃんがある事に気付いた。

Dちゃん：「なあなあ、袋の中水付いてるで！誰か水入れたん？」

Aちゃん：「ほんまや！水付いてる！不思議やなあ…」そんな会話をしながら泥団子を取り出した。

Dちゃん：「このお団子、冷たくて気持ちいい！」

と、少し湿った泥団子を取り出して話すDちゃんや他の子どもたちの姿が見られた。

環境や援助の工夫

作った泥団子を思い思いの場所に保管できる環境が準備されている。子どもの気付きや疑問を見逃さず、興味の対象に注目し関わられるように支える保育者の存在がある。

✦ 事例4：部屋に置いていたのに、何で白くなっているのだろう？（6月下旬）

泥団子作りがクラスの中で流行り出すと、泥団子を置く場所が話題になる。みんなで話し合い、靴箱の上に置く子どもと保育室に置く子どもに分かれて置くことにする。

靴箱の上に泥団子を置いていたEちゃんたちは、泥団子をカップの中から取り出して泥団子作りを再開した。保育者がEちゃんに泥団子の様子を尋ねると、Eちゃんは「白くてカチカチになってるで！」と言った。そこで、保育室に置いていたFちゃんの泥団子と見比べてみた。

Eちゃん：「F子ちゃんのお団子、白くなってないやん！やっぱりお部屋に置いてたら白くならへんなー！」と、今までの泥団子の様子から確信したように言った。

また別の日に、みんなは自分の泥団子の入れ物を、口を縛ったビニール袋かカップ（ビニール袋に入れず）のどちらかの中に入れ、保育室に置いて様子を観察した。泥団子をビニール袋に入れずカップの中に入れていたEちゃんは、いつもの同じように戸外に泥団子を持って行った。

Eちゃん：「あれ？お団子、お部屋に置いていたのに白くなっている！？今までのお団子は白くなってなかったのに…」

そう言いながら保育者に泥団子を見せてくれた。そして、いつものように泥団子に白砂をかけて、もっとツルツルになるように丁寧に泥団子を丸めていた。



環境や援助の工夫

泥団子を保管する場所を確保する。戸外と室内という場所により、泥団子の様子が違うことに気付いているので、置く場所を話し合うことで、気付いたことを共有したり場所を意識して置いたりできるようにする。また、保管場所が同じ保育室でも、泥団子を入れる物が、ビニール袋と容器によって違うことに疑問をもっている子どもを見取り、その後の様子を見守る。

✦ 考察：「比較する力」「考える力」「解決しようとする力」

戸外遊びで人気の「泥団子作り」を通して、泥団子に今まで以上に興味をもち、様々な気付きを友達と共有していったという思いが保育者にはあった。

今までは何気なく遊んでいた「泥団子作り」も、保育者の言葉かけや環境構成を配慮することで「泥団子を作るには水がいる」「作った泥団子を袋に入れておくと袋の中いつの間にか水が付く」「外に置いておくと泥団子は白くなる」などの気付きが出てきた。その気付きを取り上げ、新たな環境構成をすることで「部屋に置いておくと泥団子は白くならない」という気付きが全てに当てはまるわけではないということを知ることができ、新たな気付きへと繋げられた。

新たな気付きを見付ける楽しさを知ったことで、子どもたちの「泥団子作り」への興味も深まったように思う。

また、自分が知っていることや気付いたことを友達や保育者に話し、情報として共有する姿や、友達と保育者の遊ぶ姿を見て、興味をもち「泥団子作り」をする子どもが増えていった。

そのことから、泥団子への気付きだけでなく、人間関係も広がっていったように思う。子どもたちは泥団子を観察していく中で「観察力」、前の泥団子の様子と今の泥団子の様子を見比べていく中で「比較する力」どのようにしたら良い泥団子が作れるのかを「考える力」「解決しようとする力」、そして泥団子作りを通して情報を共有し、「友達とやりとりする力」が育ったように感じる。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」